

## 図書館について

### 1 公共施設マネジメント実行計画（平成28年2月策定）

- ・公共施設の現状と課題を踏まえ、保有する全ての公共施設を対象に、市全体の公共施設の総量抑制（保有量の縮減）、施設の維持管理・運営方法の見直し、資産の有効活用等、公共施設に関する将来的な財政負担を軽減するための取組みである「北九州市公共施設マネジメント実行計画」を策定

### 2 図書館のマネジメントの考え方

- ・中央図書館：中核拠点施設として存続
- ・地区図書館：地域拠点施設として存続（小倉北区以外の各行政区）
- ・分館：大規模区役所出張所周辺の施設は存続  
それ以外の分館は、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減
- ・門司図書館と国際友好記念図書館：門司港地域の複合公共施設に集約  
国際友好記念図書館は観光施設に移管

### 3 図書館マネジメント5カ年行動計画（平成29年3月策定）

- ・廃止検討施設：国際友好記念図書館（811 m<sup>2</sup>）、勝山分館（268 m<sup>2</sup>）、企救分館（508 m<sup>2</sup>）、八幡東分館（330 m<sup>2</sup>）、戸畑分館（185 m<sup>2</sup>）
- ・今後5年間で廃止を検討するとした施設を全て廃止した場合、図書館については約2,100 m<sup>2</sup>の削減

### 4 平成29年度の予定

- ・勝山分館（平成29年9月廃止予定）  
子ども図書館の整備に伴い廃止
- ・企救分館（平成30年3月廃止予定）  
小倉南図書館の整備に伴い廃止
- ・戸畑分館（平成30年3月廃止予定）  
指定管理期間満了に合わせて廃止
- ・国際友好記念図書館（平成30年3月廃止予定）  
指定管理期間満了に合わせて廃止 観光施設として産業経済局へ移管

5 最近10年間の主な取組み（予定を含む）

- ・平成19年4月 新門司分館を開館
- ・平成21年7月 島郷分館を移転・開館
- ・平成22年8月 返却フリー制度を開始
- ・平成23年7月 大里分館を移転・開館
- ・平成24年4月 インターネット予約を開始
- ・平成24年7月 八幡西図書館を開館
- ・平成25年6月 大池分館を廃止
- ・平成26年3月 戸畑図書館を移転・開館
- ・平成28年4月 八幡図書館を移転・開館
- ・平成29年度末 小倉南図書館を開館予定
- ・平成30年度内 子ども図書館を開館予定

# 公共施設マネジメント実行計画（平成28年2月）（抜粋）

## 3-4 図書館

### (1) 施設の現況

#### ・施設の配置状況

図書館延床面積：271 百㎡（21 施設-183 万冊蔵書）

※中央図書館、平成29年度に供用開始を予定している小倉南図書館を含む地区図書館（6）、分館（11）、国際友好記念図書館、視聴覚センター、旧戸畑図書館

#### ・利用状況

年間貸出冊数：385 万冊、利用者あたりコスト311 円/人

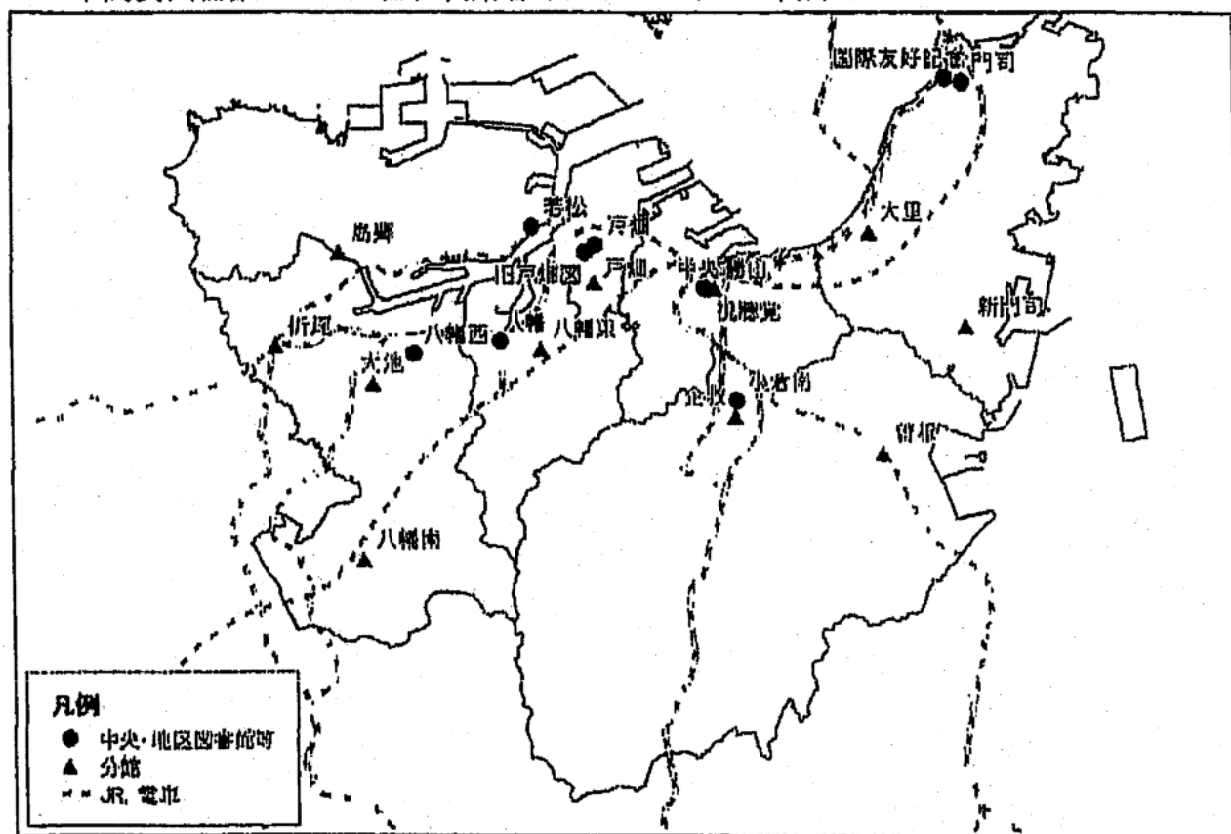


図 3-4-1 図書館の配置状況

### (2) 現状の課題

本市には中央図書館と地区図書館があり、分館を合わせると21の図書館が設置されており、他都市と比較して、施設数が多くなっています。

※地区図書館には小倉南図書館(H29)を含む

### (3) 図書館のマネジメントの考え方

中央図書館を中核拠点施設とし、地区図書館を地域拠点施設とした図書館サービス体制に移行し、分館については、大規模区役所出張所周辺の施設を存続することとし、それ以外の分館については、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移

をみながら縮減していくこととします。

なお、市民に望まれる図書館サービスの充実については、現在、図書館協議会に諮問している「これからの図書館サービスのあり方」についての答申などを踏まえ、検討することとしています。

更新の際には出来るだけ複合化を図り、閲覧室の適正規模確保に努めます。

#### (4) 図書館のマネジメント計画

門司図書館、国際友好記念図書館は門司港地域の複合公共施設に集約します。

また、折尾分館は折尾地区総合整備事業で解体されることから JR 折尾駅周辺などへの移転を検討します。

なお、企救分館は廃止し、八幡東分館、戸畑分館は廃止を検討します。

表 3-4-1 個別施設のマネジメント計画

施設名	1期 H28～H37	2期 H38～H47	3期 H48～H57	4期 H58～H67	購	将来の施設
国際友好記念図書館	●(H30年代前半)集約 ↓					観光施設
門司図書館	●(H30年代前半)集約 ↓ ●(H30年代前半)新設		門司港地域複合公共施設		更新	門司港地域 複合公共施設
大里分館						大里分館
新門司分館						新門司分館
中央図書館 勝山分館 視聴覚センター	●(H27～)子ども図書館のあり方検討		↑(H46)60年目		更新	中央図書館 子ども図書館
小倉南図書館	●(H29年度)新設				更新	小倉南図書館
企救分館	●(H29年度)廃止					
管根分館						管根分館
若松図書館					更新	若松図書館
島郷分館						島郷分館
八幡図書館	●(H28年度)移転				更新	八幡図書館
八幡東分館	●廃止検討					

八幡西図書館				→	更新	八幡西図書館
折尾分館	→●	JR折尾駅周辺などに移転				折尾分館
八幡南分館						八幡南分館
大池分館(廃止済)						
戸畑図書館					更新	戸畑図書館
戸畑分館	→●	廃止検討				
旧戸畑図書館(廃止済)						

### (5) マネジメントの結果

今後、マネジメント計画に沿って、公共施設のマネジメントの取組みを進める場合、40年後の施設量として、延床面積は約10%削減されます。

#### ・施設の削減等の計画

##### 【存続する施設(建物)】(15施設)

中央図書館、地区図書館(門司、小倉南、若松、八幡、八幡西、戸畑)  
拠点地域に配置されている分館

新門司分館(門司区) 大里分館(門司区)

勝山分館・視聴覚センター(小倉北区)

曾根分館(小倉南区) 島郷分館(若松区) 折尾分館(八幡西区)

八幡南分館(八幡西区)

##### 【廃止する施設・廃止を検討する施設】(6施設)

国際友好記念図書館(門司区) 企救分館(小倉南区) 八幡東分館(八幡東区)

戸畑分館(戸畑区) (※大池分館(八幡西区)・旧戸畑図書館(戸畑区)は廃止済)

## 第6章 モデルプロジェクト再配置計画

### 【門司港地域】

#### 1. 地域の特徴

##### (1) 概要

門司港駅、棧橋通交差点を中心に商業・業務・行政の機能が集積し中心市街地が形成されています。鉄道に加え、幹線道路が整備され、路線バスも充実しており、門司区内各地からの交通利便性が高い地域となっています。

一方、門司第一船溜まり周辺を中心に門司港レトロ事業が展開され、現在では約200万人の観光客が訪れるようになりました。しかし、人口減少・高齢化、空き店舗の増加、観光客の伸び悩み等の課題もあり、地域の活性化や観光地としての魅力向上が求められています。

##### (2) まちづくりにかかる既定方針

門司港地域は、「元気発進！北九州」プラン（北九州市基本構想・基本計画）においては、すでにある各種の都市基盤・施設を上手に利活用しながら、新しい時代にふさわしい都市機能を補強していく「生活支援拠点」として位置づけられています。

また、北九州市都市計画マスタープラン門司区構想においては、門司港レトロ地区と和布刈地区を核としながら中心市街地を広域観光拠点として位置づけ、北九州市における代表的な観光地として、街なか観光拠点の機能充実を進めていく地域と位置づけられています。

#### 2. 公共施設の現状と課題、今後の対応方針

区役所庁舎や市民会館、図書館、生涯学習センターなど、老朽化が進み近い将来、建替えが必要となる公共施設が、中心市街地を取り巻くように、点在して立地しています。

門司市民会館は、800席の大ホールがありますが、2階客席が狭い、楽屋が地下と2階しかなく使い勝手が悪いなどの問題があり、稼働率も40%を下回っています。このため、更新に合わせて、他の施設との複合化や多機能化を検討し、適正規模へ見直しを行う必要があります。

門司勤労青少年ホームは、設置当初の目的が薄れています。

門司市民会館、門司生涯学習センター、門司勤労青少年ホームには、会議室、和室等、類似した役割を持つ部屋が複数ありますが、いずれも稼働率が低い状況です。したがって、これらを集約して稼働率を高めることにより、サービス水準を大きく低下させずに、床面積の縮減が可能です。

また、このほかにも、レトロ事業で整備された旧門司三井倶楽部、旧大阪商船、旧大連航路上屋にも複数の会議室やホールがあります。今後、具体的な計画を検討

していく際には、これらの利用状況等も踏まえる必要があります。

門司区役所や門司市民会館等は、建設年次が古いため、バリアフリーに対応できていない箇所が見受けられます。

屋内スポーツ施設として、門司勤労青少年ホームの体育室、門司青少年体育館があります。

門司勤労青少年ホームの体育室については、他施設での体育館の半面利用等ソフト面での工夫など、サービス水準の確保を図りながら、集約を検討していきます。

門司青少年体育館は、主に柔剣道に利用されています。平日の夜間（18:00～20:00）に多く利用されていますが、終日の稼働率は10%程度となっています。

表 6-1 門司港地域の市民利用施設と利用状況

部 屋	項 目	門司 市民会館	門司 生涯学習 センター	門司 勤労青少年 ホーム	門司 青少年 体育館
客席固定型 フロア	部屋数	1			
	稼働率(%)	37			
平面型フロア	部屋数	1	1		
	稼働率(%)	7	40		
調理室	部屋数		1	1	
	稼働率(%)		8	4	
和室	部屋数		4	1	
	稼働率(%)		22	7	
会議室	部屋数	2	8	3	
	稼働率(%)	38	18	17	
美術工芸室	部屋数		1	1	
	稼働率(%)		22	14	
音楽室	部屋数			1	
	稼働率(%)			13	
体育館	部屋数			1	1
	稼働率(%)			88	12
出 典		北九州市公共施設白書<資料編>H26.12 (平成25年度利用実績)			利用状況調査 H26.11

※門司市民会館の美術工芸室は、利用実態を踏まえて、会議室として整理した。

### 3. 再配置計画

地域の特徴、公共施設の実態等を踏まえ、公共施設マネジメントの「基本方針」に従い、再配置の基本的な考え方は、以下の通りとし、今後、具体化に向けて検討していきます。

門司港駅周辺に、公共施設を集約し、複合化・多機能化することで、利便性の向上及び市民サービスの効率化を図るとともに、公共施設を活かし、地域の活性化を図ります。

交通利便性の高い門司港駅周辺に公共施設を集約することで、区内各地からのアクセス利便性を高めます。

また、ホールや会議室、図書館等の文化施設を一体的に整備することで、より活発な活動を支える環境づくりを進めるとともに、周辺地域の活性化や賑わいの創出を図ります。

移転跡を地域に応じた利用に転換することで、地域の魅力を高めます。

#### (1) 再配置の考え方

集約の対象は、地域内に点在する類似の設備（「ホール」、「会議室等」、「図書館」、「庁舎」）を持った門司市民会館、門司生涯学習センター、門司勤労青少年ホーム、門司図書館、国際友好記念図書館、門司区役所庁舎、港湾空港局庁舎とします。

複合化や多機能化により対象施設をひとつの建物に集約し、複合公共施設とすることで、共用部分（玄関、階段、トイレ等）の削減など、全体面積の縮減、並びに、整備・維持管理・運営に要する費用の節減を図ります。

「ホール」は、舞台設備等を備えた文化ホール仕様としますが、座席を可動式にすることで、会議、文化活動、スポーツ等、多目的に使えるよう多機能化を図り、稼働率を高めます。

「会議室等」は、各施設で重複していることから、利用実態を踏まえて、必要な規模・部屋数を確保します。

「庁舎」は、庁舎機能の集約により、会議室の共用利用や共用部分の面積の縮減を図ります。

複合公共施設には、利用形態に対応した有料駐車場を備えることとします。また、来館者へのサービス向上、地域の賑わいづくり、公共施設の整備・維持管理コストの負担軽減といった観点から、飲食や物販等の商業機能の導入について検討します。

なお、門司青少年体育館は、大里柔剣道場等の既存施設の活用などを利用の受け皿とし、更新を行わないこととします。

また、門司勤労青少年ホームの体育室は、門司体育館等に利用の振り替えは可能と考えられます。

門司港地域の集約対象施設の面積変化を表 6-2 に、複合公共施設のイメージを図 6-1 に示します。



表 6-2 公共施設の集約化の対象施設と延床面積変化

現況施設	現 状	将来計画	主な理由
市民利用施設	8,500 m <sup>2</sup>	3,600 m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室等の規模・数を利用実態に合わせるにより面積を縮減</li> <li>・「ホール」の多機能化により、面積を縮減</li> </ul>
門司市民会館	3,700 m <sup>2</sup>		
門司生涯学習センター	3,000 m <sup>2</sup>		
門司勤労青少年ホーム	1,800 m <sup>2</sup>		
図書館	1,800 m <sup>2</sup>	1,600 m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧室を拡充</li> <li>・施設の集約化、同一フロアへの集約により、共有部分を縮減</li> </ul>
門司図書館	1,000 m <sup>2</sup>		
国際友好記念図書館	800 m <sup>2</sup>		
門司区役所庁舎	7,100 m <sup>2</sup>	6,800 m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所機能の集約により共用部分の面積を縮減</li> </ul>
港湾空港局庁舎	3,500 m <sup>2</sup>	2,000 m <sup>2</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の共用利用により縮減</li> </ul>
	20,900 m <sup>2</sup>	14,000 m <sup>2</sup>	

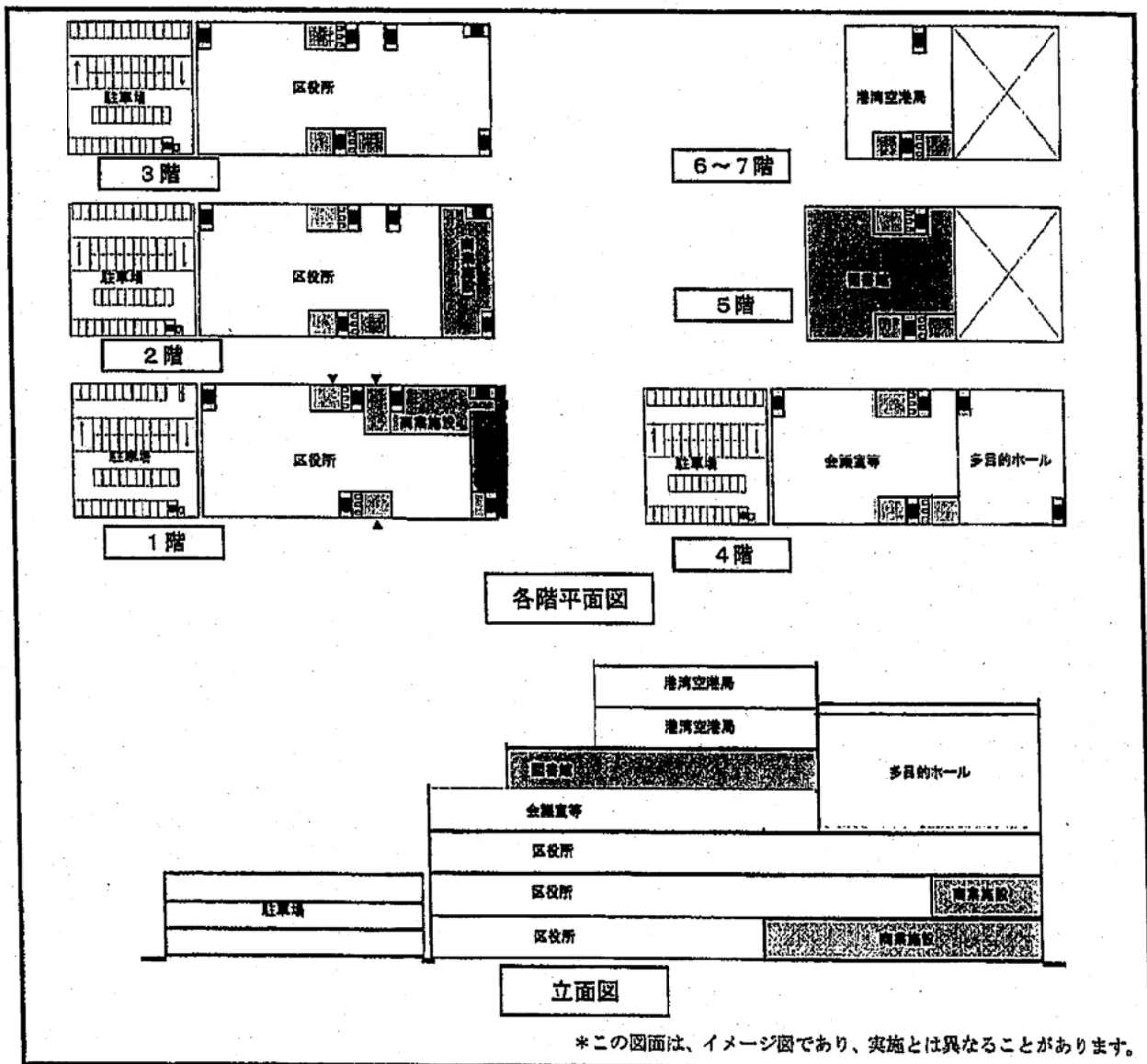


図 6-1 複合公共施設のイメージ

## (2) 再配置の場所

再配置の場所は、商業・業務機能が集積し、交通利便性が高い門司港駅周辺とします。

公共施設には、多くの人々が訪れることから、周辺を中心市街地やレトロ地区の賑わいの創出も期待できます。

集約後の施設規模（計画延床面積の合計値）は、駐車場を含めると全体で概ね20,000㎡程度の規模になるものと想定されます。これを整備するためには、少なくとも4,000㎡の敷地が必要となります。

整備可能な用地としては、門司港駅周辺において、一定の敷地面積を確保できる2箇所（下図参照）が考えられます。

今後、これらの用地を候補地として関係者との調整を進め、集約先を検討・選定していくこととします。また、集約先の選定に合わせて、具体的な施設整備の計画づくりを進めます。

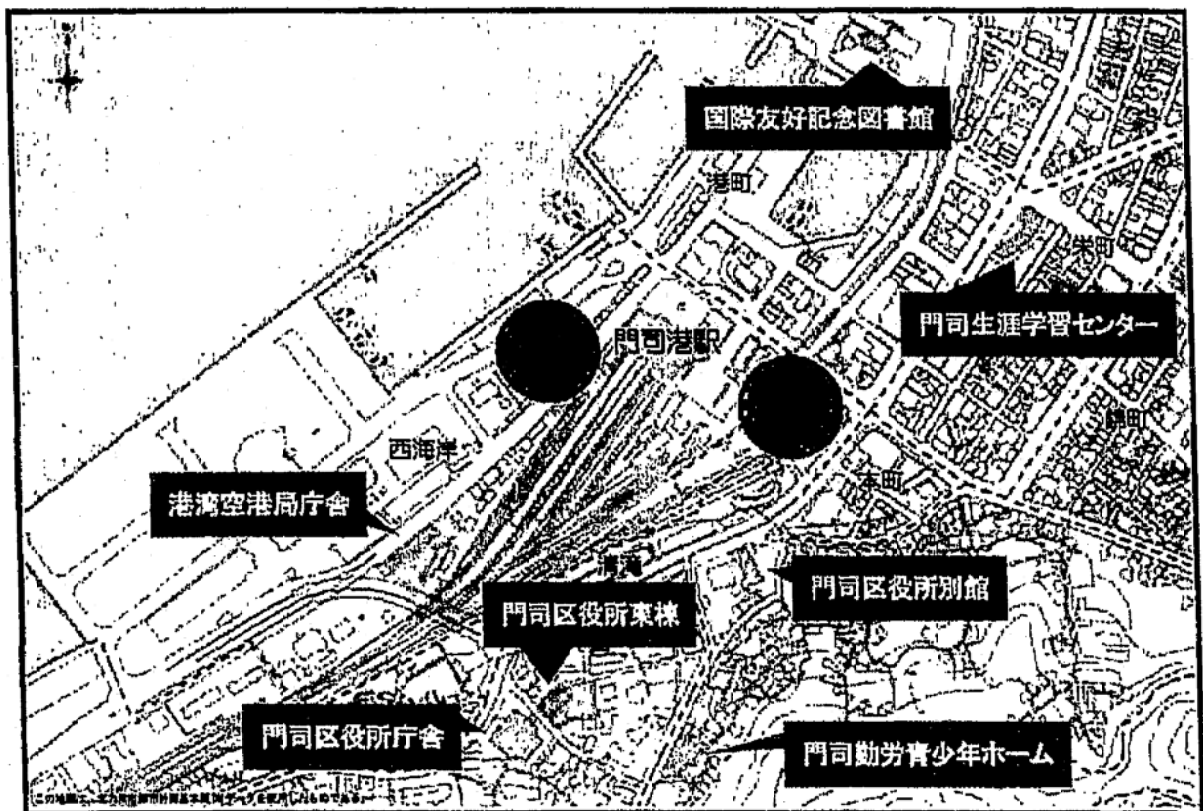


図 6-2 複合公共施設の候補地

### (3) 再配置対象施設の跡利用

単独で立地している門司市民会館、門司勤労青少年ホーム等については、用途を廃止した場合は、解体・撤去を行い、その跡地は民間へ売却することを基本として、周辺の土地利用に適合した利用に転換します。

UR都市機構が所有・管理する共同住宅との合築となっている門司生涯学習センターと門司区役所別館については、同機構とともに、地域の生活利便性の向上、地域の活性化に資するような利用への転換を図ります。

国の登録有形文化財である門司区役所庁舎、大連市との友好都市締結の記念として整備された国際友好記念図書館の建物については、民間活力の導入を視野に、その外観や歴史性、眺望を活かし、門司港レトロ地区の活性化に資するような利活用に向けて検討していきます。

### (4) 再配置のスケジュール

今後、施設利用者との調整、集約先の検討・選定等が必要になりますが、以下のようなスケジュールを基本に進めます。

表 6-3 門司港地域の再配置のスケジュール

	平成 年度					
	28	29	30	31	32	33
集約化に向けた利用者調整						
集約先の検討・選定 (地権者との交渉・調整)						
複合公共施設の整備						

### (5) モデルプロジェクトの効果

施設の整備・更新にかかる費用については、上記のような公共施設の再配置を行い、床面積の縮減が図られることから、当初の建設費の縮減が可能となります。現在の施設をそのままの規模で個別に建替えるよりも、概ね 15 億円の負担軽減が見込まれます。

このほか、複数施設の一体的な管理に伴う、運営費用の縮減効果も期待できます。

また、施設利用の点からは、ホールや図書館の様々な活動の際に会議室が効果的に利用できるようになるほか、バリアフリーの充実などにより、便利で利用しやすい施設になります。

複合公共施設には多くの人々が訪れるようになることから、レトロ地区や商店街の賑わい創出や活性化が期待できます。

公共施設の移転跡に生活利便施設の立地を図ることによって、より便利に暮らせるようになります。